

『国際地域経済研究』第22号の刊行にあたって

附属経済研究所長 山本陽子

名古屋市立大学大学院経済学研究科附属経済研究所年報『国際地域経済研究』は2000年3月の創刊以来、今回で22号目の刊行を迎えました。本号では2つの論文を所収しました。1本目の「自然災害と健康格差：東日本大震災が要介護認定者数に及ぼす長期的影響」では、東日本大震災が被災者の健康状態に及ぼす中長期的影響を差分の差分法による因果推定により検証をしています。2本目の「プロセス産業における技術進歩と脱成熟—フロート法の事例—」では、プロセス産業における技術進歩のS曲線の生成過程とその脱成熟の要因を板ガラスの成形技術であるフロート法に着目をして明らかにしています。

また、一昨年度は公開シンポジウムの開催を新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い断念いたしました。昨年度から再開しました。今年度は「金融リテラシー：現在・過去・未来」をテーマに第26回公開シンポジウム（大学院経済学研究科、日本金融学会中部部会との共催）を令和4(2022)年11月17日にオンラインで開催いたしました。おかげをもちまして大変な盛会となりましたことをこの場をお借りしてお礼申し上げます。

末筆ながら今後も経済研究所の活動におきまして、皆様のご支援、ご協力をいただけますようお願い申し上げます。